

「安心・活力・発展プラン2005」 第4回活力部会 委員発言要旨

日時：平成27年2月25日(水)15:30～17:30

場所：大分オアシスタワーホテル3階「紅梅の間」

No.	項目	発言要旨
1	農林水産業	輸出の取組はなかなか大変。これまでどのように取り組んで、その結果がどうであったかといった情報を集約・整理した上で情報公開してほしい。
2		中食や外食、食品加工業など、大企業の需要にアプローチして地元産品を売り込んでみてはどうか。
3		農山漁村地域の基本は集落活動。集落営農法人間の連携の先には集落間連携がある。将来的には集落営農法人同士の合併ということも視野に入れていかなければならないと思う。
4		経営者と労働者が分離した雇用型農業の推進が必要。
5	農林水産業 商工業	ビッグデータを活用する場合、その情報を公開することで農林水産業だけではなく、その周辺の企業にも新しいチャンスが生まれる。
6	農林水産業 地域づくり	集落間連携の中で、弱い集落を強い集落が連携して支えていく仕組みづくりが必要ではないか。元気で豊かな農山漁村づくりに力を注いでほしい。
7	商工業	技術者の人材確保に苦労しているが、最近は収入よりもやりがいということに戻ってきてくれている。技術者にとってのやりがいは、新しい技術を勉強しながら新分野の開発をしていくこと。成長分野へ挑戦していく中小企業に対して、積極的な支援をお願いしたい。
8		UJターン支援はもう少し踏み込んで欲しい。大分県サポートクラブなどの形で高校生から希望者を募り、大分のニュースを流すなど、大分の良さをアピールしてつなぎとめる方法があるとよい。
9		水産加工業への就労は若い人から敬遠されがち。インターンシップ等を通じ、若い人にやりがいを感じてもらう機会を増やしてほしい。
10		小規模の企業ではいろんな場面での書類作成に苦慮する。スタートアップセンターなどで支援をしてもらえないか。
11		Uターン希望者や新卒者のマッチングのためにも、地場中小企業をPRする情報の場があると良い。
12	女性の活躍	会社内での託児所の設置について、保育の質が下がるということが問題だとは思うが、支援の再検討をお願いしたい。女性の活力に非常に期待している。
13		女性は子育てもあり管理職になりたがらない。保育や家庭生活の支援を充実させる必要があるのではないか。

No.	項目	発言要旨
14	女性の活躍	女性が一度仕事を辞めて仕事復帰する場合に、できるだけ良い条件で復帰できるようにキャリアアップの支援がもう少しあると良い。
15		M字カーブについて、20代後半の下がりはじめをいかに下げないようにするかも大事。速効性もあると思うので、そのアプローチはできないか。育休明けの働き方について、企業に実験的に協力してもらい検証してみるのも良いのでは。
16		女性の活用においては、子どもの面倒を見る人がいないことが問題。住宅探しなども含め、相談に乗れるようなところがあるとよい。
17		女性の参画を進めるため、いろんな地域ごとに、育児や介護等を現在進行形で行っている女性の意見を聞ける場所を設けてはどうか。
18	男女共同	男性が育児に参加するための時間を確保することがポイント。長時間労働を減らし育児に参加できる仕組みをもう少し考えて欲しい。
19		育児に関して、育児中の男性の声を聞くことも大事。
20	ツーリズム	インバウンドは大分だけでなく九州に訪れているので、大分が中心となり九州各县等を巻き込むような取組を進めて欲しい。
21		公共交通の観光案内について、県外から来た人の視点に立って充実させて欲しい。
22		観光誘客を推進する事務局において、ノウハウを持ち、旅行代理店等と信頼関係がある人材が4年で辞めざるを得ない状況であるので、優秀な人材が働き続けられる仕組みづくりが必要。
23	海外戦略	国際、観光、広報、農林、商工も含めた海外戦略の中にインバウンド戦略があると考えており、「おんせん県おおいた」等の取組を推進していくためには、部局横断のPTが必要。
24		留学生が地元の小学生や家族と交流することで、仕事だけではなく、文化的にも定着できると思うので支援してみてはどうか。
25	ブランド力	大分をPRするドラマ等を誘致する等、広報活動を強化して欲しい。
26	地域づくり	空き家の利活用策として、地域のサロンというのは非常に良いと思う。1集落に1つでもあればありがたい。地域の空きや対策の一つとしてぜひ推進してほしい。
27		県外から移り住んでも地域の人と溶け込めないという話を聞く。県内や近県の人に空き家を別荘として購入してもらうなど、地域住民が外から来た人と普段から交流し慣れ親しんもらうことで、結果として移住もしやすくなるのではないか。